

各科診療科長
各科診療科副科長
各医局長 殿
各看護師長

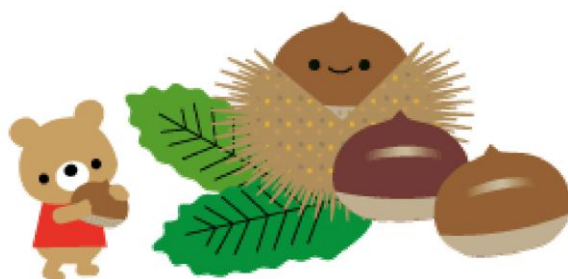
Drug Information News

平成24年9月20日

NO.231

目次

【1】 医薬品・医療機器等安全性情報NO.293	P1
* 一般用医薬品による重篤な副作用について	
* 重要な副作用等に関する情報	
* 使用上の注意の改訂について	
【2】 添付文書の改訂	P11
【3】 市販直後調査対象品目(院内採用薬)	P12
【4】 Q&A ポリオ不活化ワクチン導入について	P14
【5】 インシデント事例からの注意喚起	P18
【6】 10月より長期投与可能となる医薬品について	P26



薬剤部HP (<http://www.oita-u.ac.jp/yakub/index.html>) に内容を掲載しています。

大分大学医学部附属病院薬剤部DⅠ室
(内線:6108 E-mail:DI@oita-u.ac.jp)

【1】医薬品・医療機器等安全性情報 No. 293

*詳細は PMDA(医薬品医療機器総合機構)HP http://www.info.pmda.go.jp/iyaku_anzen/file/PMDSI293.pdf

1 一般用医薬品による 重篤な副作用について

1. はじめに

医薬品の副作用は、薬事法に基づき製造販売業者を通じて又は医薬関係者から直接厚生労働大臣に報告されますが、報告される副作用症例の中には、一般用医薬品による重篤な副作用症例も含まれており、一般用医薬品についても副作用の発現に対して注意が必要です。

本稿では、平成19年度から平成23年度の間に、製造販売業者から報告があった一般用医薬品による重篤な副作用の報告状況等について紹介します。

2. 薬事法に基づく副作用報告制度について

医薬品、医療機器等の製造販売業者は、医薬品、医療機器等による副作用・感染症・不具合の発生や研究報告等を知ったときは、薬事法第77条の4の2第1項の規定に基づき厚生労働大臣に報告することが義務づけられています。また、医師、歯科医師、薬剤師等の医薬関係者についても、医薬品、医療機器による副作用、不具合等の発生について薬事法第77条の4の2第2項の規定に基づき、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、厚生労働大臣へ直接報告することが義務づけられています。これらの規定に基づき報告された医薬品又は医療機器の使用による健康被害（副作用、感染症及び不具合）の情報は、医薬品医療機器総合機構（以下、「PMDA」という。）で専門的観点から分析、評価され、この結果に基づき、厚生労働省は、必要な安全対策を検討し、広く医療関係者に必要な情報を提供し、医薬品及び医療機器の市販後安全対策を行っています。

3. 一般用医薬品によるものと疑われる副作用報告について（平成19年度から平成23年度）

平成19年度から平成23年度の5年間に製造販売業者から報告された一般用医薬品の副作用報告数は合計1220例で、毎年250症例前後報告されています（図1）。薬効分類別の副作用症例数は、総合感冒剤（かぜ薬）404例、解熱鎮痛消炎剤243例、漢方製剤132例の順となっています（表1）。そのうち死亡症例は合計24例であり、薬効分類別では総合感冒剤（かぜ薬）12例、解熱鎮痛消炎剤4例、漢方製剤2例等です（表2）。後遺症が残った症例は合計15例であり、総合感冒剤（かぜ薬）8例、解熱鎮痛消炎剤2例、カルシウム剤2例等です（表3）。このように、一般用医薬品でもアナフィラキシーショック、肝機能障害、スティーブンス・ジョンソン症候群等の重篤な症例や死亡に至る症例が報告されています。

図 1 一般用医薬品による副作用報告（副作用症例数）の年次推移

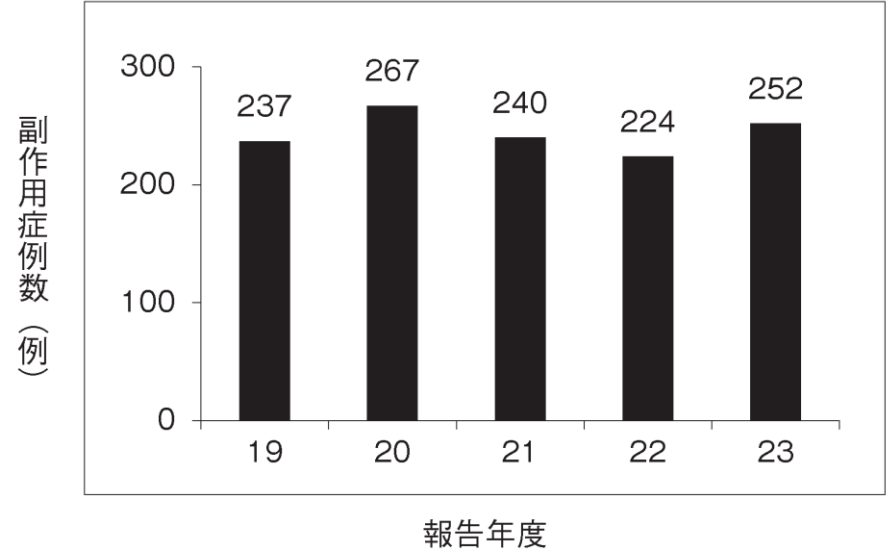


表 1 薬効群別副作用症例数の状況（平成19年度から平成23年度）

薬効分類	副作用症例数	主な副作用
総合感冒剤（かぜ薬）	404	スティーブンス・ジョンソン症候群，間質性肺疾患，劇症肝炎等
解熱鎮痛消炎剤	243	スティーブンス・ジョンソン症候群，喘息発作重積，腎障害等
漢方製剤	132	肝機能異常，間質性肺疾患，偽アルドステロン症等
禁煙補助剤	70	アナフィラキシー様反応，狭心症，うつ病等
耳鼻科用剤	47	横紋筋融解症，痙攣，呼吸困難等
鎮咳去たん剤	25	アナフィラキシーショック，中毒性皮疹，黄疸等
鎮痛，鎮痒，収れん，消炎剤	24	接触性皮膚炎，アナフィラキシーショック，全身紅斑等
その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	24	肝機能障害，偽アルドステロン症，間質性肺疾患等
カルシウム剤	23	結腸ポリープ，胆石症，白内障等
その他	228	
合計	1220	

表2 死亡症例の状況（平成19年度から平成23年度）

薬効分類	副作用症例数	主な副作用
総合感冒剤（かぜ薬）	12	中毒性表皮壊死融解症，肝障害，間質性肺疾患，スティーブンス・ジョンソン症候群等
解熱鎮痛消炎剤	4	ライ症候群，喘息発作重積，代謝性アシドーシス等
漢方製剤	2	間質性肺疾患
制酸剤	1	中毒性表皮壊死融解症
催眠鎮静剤，抗不安剤	1	死亡
鎮咳去たん剤	1	意識変容状態，心室性頻脈
混合ビタミン剤（ビタミンA・ビタミンD混合製剤を除く）	1	劇症肝炎
総合代謝性製剤	1	薬物性肝障害
その他のアレルギー製剤	1	眼球突出症，眼痛，嘔吐
合計	24	

表3 後遺症が残った症例の状況（平成19年度から平成23年度）

薬効分類	副作用症例数	主な副作用
総合感冒剤（かぜ薬）	8	スティーブンス・ジョンソン症候群，中毒性皮膚壊死融解症等
解熱鎮痛消炎剤	2	皮膚粘膜眼症候群，小脳性運動失調
カルシウム剤	2	網膜剥離，歯槽骨炎
鎮咳去たん剤	1	スティーブンス・ジョンソン症候群
複合胃腸剤	1	糸球体腎炎
その他のビタミン剤	1	肺塞栓症
合計	15	

4. おわりに

一般用医薬品においても、重篤な副作用が報告されており、報告された症例の中には死亡の転帰をたどるものや後遺症を残すような症例も含まれています。一般的に、副作用の重篤化を防止するためには、副作用の早期発見が重要であると考えられますが、一般用医薬品の副作用については、社会的認知度が低いため、医療用医薬品の副作用よりも発見が遅くなるおそれがあることが考えられます。薬剤師・登録販売者等におかれては、一般用医薬品を使用者へ提供する際には、各医薬品に応じ、副作用の初期症状についても情報提供を行い、使用者自身での自覚症状の確認を促すとともに、使用者自身が自覚症状に気づかれた際には、医療機関へ受診又は薬局・薬店などで専門家に相談するようお伝えください。また、医療従事者におかれては、使用者より相談があった際は、副作用の初期症状を確認し、早期発見に努めていただくようお願いします。

厚生労働省では、重篤な副作用について、初期症状、臨床経過、治療法などに関する情報をとりまとめた「重篤副作用疾患別対応マニュアル」を厚生労働省のホームページ及びPMDAの医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載し、情報提供していますのでご活用ください。

PMDAが無料で提供しているメール配信サービス「PMDA メディナビ」（詳細については、医薬品・医療機器等安全性情報 No. 278 及び No. 289 をご覧ください。）では一般用医薬品の添付文書の改訂情報についても配信しています。診療等に当たっては、PMDAのホームページに掲載されている情報とともに、PMDA メディナビからの最新の情報も活用いただくようお願いします。

なお、医薬品を適正に使用したにもかかわらず副作用により入院治療を要する程度以上の健康被害が生じた場合等に、医薬品副作用被害救済制度の対象となる可能性があります（詳細については、医薬品・医療機器等安全性情報 No. 262、No. 273 及び No. 286 をご覧ください。）。一般用医薬品についても本制度の対象となっていることから、一般用医薬品による副作用が発生した場合、また、そのことについて相談を受けた場合、その健康被害が本制度の救済の対象になると思われるときには、本制度を紹介していただくとともに、請求に必要な診断書、販売証明書等の作成につきご協力をお願いします。

- ・重篤副作用疾患別対応マニュアル

http://www.info.pmda.go.jp/juutoku/juutoku_index.html

- ・PMDA メディナビページ

<http://www.info.pmda.go.jp/info/idx-push.html>

- ・医薬品副作用被害救済制度の問い合わせ

独立行政法人医薬品医療機器総合機構

（救済制度相談窓口）

電話番号：0120－149－931（フリーダイヤル）

受付時間：〔月～金〕9時～17時（祝日・年末年始を除く）

Eメール：kyufu@pmda.go.jp

ホームページ：<http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai.html>

2

重要な副作用等に関する情報

平成24年7月10日に改訂を指導された医薬品の使用上の注意のうち重要な副作用等について、改訂内容等とともに改訂の根拠となった症例の概要等に関する情報を紹介いたします。

① プレガバリン

販売名(会社名)	リリカカプセル25mg、同カプセル75mg、同カプセル150mg（ファイザー）
薬効分類等	その他の中枢神経系用薬
効能・効果	末梢性神経障害性疼痛、線維筋痛症に伴う疼痛

《使用上の注意(下線部追加改訂部分)》

[重要な基本的注意]

本剤の投与によりめまい、傾眠、意識消失等があらわれ、自動車事故に至った例もあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。特に高齢者ではこれらの症状により転倒し骨折等を起こした例があるため、十分に注意すること。

[副作用（重大な副作用）]

めまい、傾眠、意識消失：めまい、傾眠、意識消失があらわれ、転倒し骨折等に至ったとの報告があるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止又は減量するなど、適切な処置を行うこと。

低血糖：低血糖があらわれることがあるので、脱力感、倦怠感、冷汗、振戦、意識障害等の低血糖症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

間質性肺炎：間質性肺炎があらわれることがあるので、咳嗽、呼吸困難、発熱等の臨床症状を十分に観察し、異常が認められた場合には胸部X線、胸部CT等の検査を実施すること。間質性肺炎が疑われた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

ショック、アナフィラキシー様症状：ショック、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）、多形紅斑：皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

[高齢者への投与]

高齢者では腎機能が低下していることが多いため、クレアチニンクリアランス値を参考に投与量、投与間隔を調節するなど、慎重に投与すること。

また、高齢者ではめまい、傾眠、意識消失等により転倒し骨折等を起こした例があるため、十分に注意すること。

〈参考〉

直近約3年間（平成21年4月1日～平成24年6月7日）の副作用報告（因果関係が否定できないもの）の件数

- ・めまい、意識障害関連症例：17例（うち死亡0例）
- ・低血糖症：3例（うち死亡0例）

- ・間質性肺炎関連症例：5例（うち死亡0例）
- ・ショック、アナフィラキシー様症状関連症例：5例（うち死亡0例）
- ・皮膚粘膜眼症候群関連症例：4例（うち死亡0例）

関係企業が推計したおおよその年間使用者数：約26万人（平成23年7月1日～平成24年6月30日）

販売開始：平成22年6月

②メトトレキサート

販売名(会社名)	リウマトレックスカプセル2mg【院外】（ファイザー） メトレート錠2mg（参天製薬）
薬効分類等	他に分類されない代謝性医薬品
効能・効果	関節リウマチ、関節症状を伴う若年性特発性関節炎

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

[禁忌]

活動性結核の患者

[慎重投与]

結核の既感染者（特に結核の既往歴のある患者及び胸部 X 線検査上結核治癒所見のある患者）

[重要な基本的注意]

本剤投与に先立って結核に関する十分な問診、胸部 X 線検査及びツベルクリン反応検査を行い、適宜胸部 CT 検査、インターフェロング応答測定（クオンティフェロン）等を行うことにより、結核感染の有無を確認すること。結核の既往歴を有する場合及び結核感染が疑われる場合には、結核の診療経験がある医師に相談すること。以下のいずれかの患者には、原則として抗結核薬の投与をした上で、本剤を投与すること。

（1）胸部画像検査で陈旧性結核に合致するか推定される陰影を有する患者

（2）結核の治療歴（肺外結核を含む）を有する患者

（3）ツベルクリン反応検査やインターフェロング応答測定（クオンティフェロン）等の検査により、既感染が強く疑われる患者

（4）結核患者との濃厚接触歴を有する患者

また、本剤投与中も、胸部 X 線検査等の適切な検査を定期的に行うなど結核の発現には十分に注意し、患者に対し、結核を疑う症状が発現した場合（持続する咳、発熱等）には速やかに主治医に連絡するよう説明すること。なお、結核の活動性が確認された場合は本剤を投与しないこと。

[副作用（重大な副作用）]

結核：結核があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

〈参考〉

直近約3年間（平成21年4月1日～平成24年5月16日）の副作用報告（因果関係が否定できないもの）の件数

- ・結核関連症例：7例（うち死亡0例）

関係企業が推計したおおよその年間使用者数：約30万8000人（平成23年）

販売開始：平成11年8月

③インフルエンザHAワクチン

販売名(会社名)	インフルエンザHAワクチン“化血研”（化学及血清療法研究所）
薬効分類等	ワクチン類
効能・効果	本剤は、インフルエンザの予防に使用する

《使用上の注意(下線部追加改訂部分)》

[副作用（重大な副作用）]

ネフローゼ症候群：ネフローゼ症候群があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。

〈参考〉

直近約3年間（平成21年4月1日～平成24年4月30日）の副作用報告（因果関係が否定できないもの）の件数

・ネフローゼ症候群：4例（うち死亡0例）

関係企業が推計したおよその年間使用者数：季節性インフルエンザワクチンについて、約5033万人（平成23年度）

販売開始：昭和47年9月

3

使用上の注意の改訂について (その237)

平成 24 年 7 月 10 日に改訂を指導された医薬品の使用上の注意（本号の「2 重要な副作用等に関する情報」で紹介したものを除く。）について、改訂内容、主な該当販売名等をお知らせいたします。

1. 〈糖尿病用剤〉

メトホルミン塩酸塩

[販売名]

メトグルコ錠 250mg

[禁忌]

QT 延長のある患者（先天性 QT 延長症候群等）

[副作用（重大な副作用）]

横紋筋融解症：筋肉痛、脱力感、CK（CPK）上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2. 〈他に分類されない代謝性医薬品〉

デノスマブ（遺伝子組換え）

[販売名]

ランマーク皮下注 120mg 【試用】（第一三共）

[重要な基本的注意]

低カルシウム血症があらわれることがあるので、本剤投与開始前に、血清カルシウム、リン等の血清電解質濃度を測定すること。低カルシウム血症が認められた場合には、低カルシウム血症を是正した後に、本剤の投与を開始すること。治療開始後数日から、低カルシウム血症があらわれることがある。本剤投与後は、患者の状態に注意し、定期的に血清カルシウム、リン等の血清電解質濃度を測定すること。また、本剤による重篤な低カルシウム血症の発現を軽減するため、高カルシウム血症の患者を除き、原則として、カルシウム及びビタミン D を経口補充すること。

[副作用（重大な副作用）]

低カルシウム血症：痙攣、テタニー、しびれ、失見当識、QT 延長等の症状を伴う低カルシウム血症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、カルシウム剤の点滴投与等の適切な処置を行うこと。

なお、海外において死亡に至った重篤な低カルシウム血症が報告されている。

3. 〈その他の腫瘍用薬〉

テムシロリムス

[販売名]

トーリセル点滴静注液 25mg 【患限】（ファイザー）

[副作用（重大な副作用）]

口内炎：口内炎、口腔内潰瘍形成、舌炎、口腔内痛等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。貧血、血小板減少、白血球減少、好中球減少、リンパ球減少：貧血、血小板減少、白血球減少、好中球減少、リンパ球減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。

4. 〈その他の腫瘍用薬〉

ニロチニブ塩酸塩水和物

[販売名]

タシグナカプセル 150mg 【患限】、同カプセル 200mg 【患限】（ノバルティスファーマ）

[副作用（重大な副作用）]

末梢動脈閉塞性疾患：閉塞性動脈硬化症、末梢性虚血、四肢動脈血栓症等の末梢動脈閉塞性疾患があらわれることがあり、壊死に至った例が報告されている。観察を十分に行い、間欠性跛行、疼痛、冷感、しびれ等が認められた場合には投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。

5. 〈主としてカビに作用するもの〉

ボリコナゾール

[販売名]

ブイフェンド 200mg 静注用 【科限】、同錠 50mg（ファイザー）

[副作用（重大な副作用）]

低血糖：重篤な低血糖があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

意識障害：意識消失、意識レベルの低下等の意識障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

6. 〈合成抗菌剤〉

シタフロキサシン水和物

[販売名]

グレースビット錠 50mg 【院内限定】（第一三共）

[副作用（重大な副作用）]

急性腎不全：急性腎不全があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

低血糖：低血糖があらわれることがあり、低血糖性昏睡に至る例も報告されているので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。糖尿病患者、腎機能障害患者、高齢者であらわれやすい。

7. 〈合成抗菌剤〉

シプロフロキサシン

〔販売名〕

シプロキサシン注 300mg（バイエル薬品）

〔副作用（重大な副作用）〕

中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）、多形紅斑、急性汎発性発疹性膿疱症：中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑、急性汎発性発疹性膿疱症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

8. 〈抗ウイルス剤〉

アデホビルピボキシル

〔販売名〕

ヘプセラ錠 10【科限】（グラクソ・スミスクライン）

〔重要な基本的注意〕

本剤の投与中は血清クレアチニン等の腎機能検査値の測定を行うなど、腎機能障害の発現に注意すること。また、ファンコニー症候群を含む腎尿細管障害による低リン血症から骨軟化症が発現することがあるので、血清リン、アルカリフォスファターゼ等の変動を定期的に観察すること。

〔副作用（重大な副作用）〕

腎不全、ファンコニー症候群等の重度の腎機能障害：腎機能障害、腎不全、腎尿細管障害、ファンコニー症候群があらわれることがあるため、腎機能検査を行う等観察を十分に行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。海外の臨床試験において、本剤 10mg/日を投与した肝移植前後の患者で腎機能低下が認められた。これらの症例の多くは、シクロスポリン及びタクロリムスの投与、腎機能低下、高血圧、糖尿病及び移植を含む腎機能障害の危険因子を有していた。なお、これら肝移植前後の患者の 4%（467 例中 19 例）が、腎臓に関連する有害事象のために本剤の投与を中止した。また、他の海外臨床試験において、本剤の承認用量（10mg/日）の 3～12 倍の用量を 20 週以上投与した患者で、血清クレアチニン増加、血清リン低下が報告されている。

骨軟化症：長期投与により、ファンコニー症候群を含む腎尿細管障害による低リン血症から、骨痛、関節痛、筋力低下を伴う骨軟化症があらわれることがある。また、骨折に至る例も報告されている。本剤を長期投与する場合は、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

【2-1】添付文書の改訂

薬効分類番号	商品名	① 警告	② 禁忌	③ 効能効果	④ 効能効果（注意）	⑤ 用法・用量	⑥ 用法用量（注意）	⑦ 原則禁忌	⑧ 慎重投与	⑨ 重要な基本的注意	⑩ 相互作用（禁忌）	⑪ 相互作用（注意）	⑫ 副作用	⑬ 重大な副作用	⑭ 高齢者投与	⑮ 妊産婦授乳婦投与	⑯ 小児投与	⑰ 過量投与	⑱ 適用上の注意	⑲ 薬物動態	⑳ その他	改訂年月日
117	ストラテラカプセル10mg			○	○	○				○			○		○				○	○	○	H24.8
119	セレジストOD錠5mg												○				○					H24.8
122	スキサメニウム注100「AS」		○							○		○		○								H24.8
124	ギャバロン髄注0.005%、0.05%、0.2%																				○	H24.8
131	ジクアス点眼液3%												○									H24.8
131	レスキュラ点眼液0.12%																				○	H24.8
214	ディオバン錠80mg					○	○		○								○			○	○	H24.8
217	コメリアンコーワ錠50																				○	H24.8
218	ローコール錠20mg								○				○									H24.8
229	シムビコートタービューヘイラー60吸入			○	○	○	○			○		○	○								○	H24.8
239	プロイメンド点滴静注用150mg																				○	H24.8
239	ペンタサ錠 250mg、500mg					○							○								○	H24.8
241	グロウジェクトBC注射用8mg			○	○	○	○			○			○									H24.8
243	チラーヂンS錠25 μ g、チラーヂンS錠50 μ g																				○	H24.8
339	プラビックス錠75mg			○																	○	H24.8
399	アログリセムカプセル25mg												○	○								H24.8
399	ゾメタ点滴静注用4mg												○	○					○			H24.8
399	ヒュミラ皮下注40mgシリンジ0.8mL			○	○					○			○	○							○	H24.8
399	メトレート錠2mg		○						○	○				○								H24.7
399	サーティカン錠0.25mg								○			○										H24.8
399	サンディムン点滴静注用250mg			○		○							○								○	H24.8
399	ネオーラル内用液10%、カプセル10mg、25mg			○		○							○							○	○	H24.8
422	アラノンジー静注用250mg												○	○						○		H24.8
429	エルプラット点滴静注液50mg、100mg													○							○	H24.8
429	スーテントカプセル12.5mg			○	○	○	○						○	○					○	○	○	H24.8
429	アフィニール錠5mg																				○	H24.8
613	ユナシン-S静注用1.5g			○		○			○			○	○	○							○	H24.8
629	バクタ配合錠、配合顆粒			○	○	○	○		○					○						○	○	H24.8

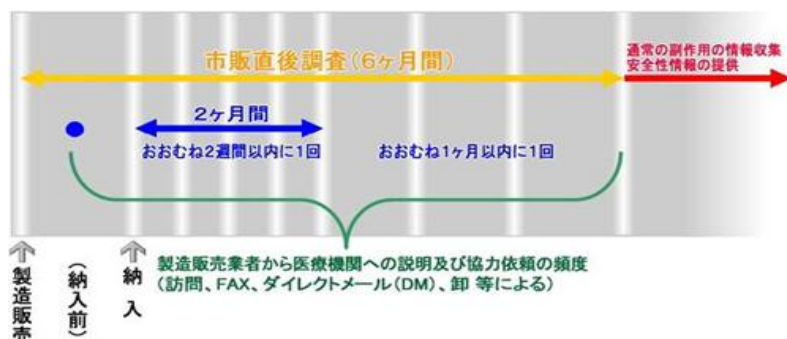
【3】市販直後調査対象品目(院内採用薬)

市販直後調査とは・・・

新医薬品がいったん販売開始されると、治験時に比べてその使用患者数が急激に増加するとともに、使用患者の状況も治験時に比べて多様化することから、治験段階では判明していなかった重篤な副作用等が発現することがあります。このように新医薬品の特性に応じ、販売開始から6ヵ月間について、特に注意深い使用を促し、重篤な副作用が発生した場合の情報収集体制を強化する市販直後調査は、市販後安全対策の中でも特に重要な制度です。

現在実施中の市販直後調査については下記の通りです。

副作用・感染症の報告については薬剤部DI室(内線6108)にご連絡ください。



商品名 会社名	一般名	調査開始日	備考
ザーコリカプセル200mg, 250mg ファイザー	クリゾチニブ	平成24年3月30日	
ランマーク皮下注120mg 第一三共	デノスマブ (遺伝子組換え)	平成24年4月17日	
イグザレルト錠10mg, 15mg バイエル薬品	リバーロキサバン	平成24年4月18日	
ルネスタ錠1mg エーザイ	エスゾピクロン	平成24年4月18日	
カンサイダス点滴静注用50mg, 70mg MSD	カスポファンギン酢酸塩	平成24年4月19日	
ボナロン点滴静注バッグ900μg 帝人ファーマ	アレンドロン酸ナトリウム水和物	平成24年5月10日	
アイファガン点眼液0.1% 千寿製薬	ブリモニジン酒石酸塩	平成24年5月11日	
サレドカプセル100 藤本製薬	サリドマイド	平成24年5月25日	効能 「らい性結節性紅斑」
フィニバックス点滴静注用0.5g 塩野義製薬	ドリペネム水和物	平成24年5月25日	効能 「化膿性髄膜炎」 用法 「小児」
ナゾネックス点鼻液50μg56噴霧用 MSD	モメタゾンフランカルボン酸 エステル水和物	平成24年5月25日	用法 「小児」
オキファスト注50mg 塩野義製薬	オキシコドン塩酸塩水和物	平成24年5月28日	
アジルバ錠40mg 武田薬品工業	アジルサルタン	平成24年5月28日	
ボテリジオ点滴静注20mg 協和発酵キリン	モガムリズマブ (遺伝子組換え)	平成24年5月29日	
ミニリンメルトOD錠120μg 協和発酵キリン	デスモプレシン酢酸塩水和物	平成24年5月29日	

ペンレステープ18mg マルホ	リドカイン	平成24年6月22日	効能 「伝染性軟属腫摘除時の疼痛緩和」
リリカカプセル25mg, 75mg, 150mg ファイザー	プレガバリン	平成24年6月22日	効能 「線維筋痛症に伴う疼痛」
ネキシウムカプセル20mg 第一三共	エソメプラゾール マグネシウム水和物	平成24年6月22日	効能 「低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制」
イメンドカプセル80mg, 125mg 小野薬品工業	アプレピタント	平成24年6月22日	用法 「小児（12歳以上）」
ジスロマック点滴静注用500mg ファイザー	アジスロマイシン水和物	平成24年6月22日	効能 「骨盤内炎症性疾患」
レグナイト錠300mg アステラス製薬	ガバペンチン エナカルビル	平成24年7月10日	

【4】Q&A ポリオ不活化ワクチン導入について

平成 24 年 9 月 1 日から、ポリオの定期接種では、ごく稀ではあるが麻痺が生じる恐れがあった生ポリオワクチンの定期予防接種が中止され、より安全な不活化ポリオワクチンの定期接種に切り替わります。また、ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオワクチン（DPT-IPV）の 4 種混合ワクチンの定期接種が 11 月から予定されています。接種方法が変わり、移行期は新ワクチンの回数がこれまでの接種歴で異なり注意が必要となります。今回は、ポリオの定期接種についてまとめたので、ご参照下さい。

1. ポリオ

ポリオは、ポリオウイルスが人の口の中に入り、腸の中で増殖することで感染します。増殖したポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。成人が感染することもあります、乳幼児がかかることが多い病気です。

ポリオウイルスに感染すると手や足に麻痺があらわれることがあります、感染しても多くの場合は、不顕性感染であり、知らない間に免疫が出来ます。しかし、腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生涯残ることがあります。麻痺の進行を抑制し、また回復させるための治療が試みられてきましたが、現在、特効薬などの確実な治療法はありません。麻痺に対しては、残された機能を最大限に活用するためのリハビリテーションが行われています。

2. ワクチン接種の必要性

日本では、昭和 35 年に、ポリオ患者の数が 5 千人を超え、かつてない大流行となりましたが、生ポリオワクチンの導入により、流行は終息しました。昭和 55 年の 1 例を最後に、現在まで、野生の（ワクチンによらない）ポリオウイルスによる新たな患者は出ていません。



では、なぜ今でもワクチンの接種が必要なのでしょうか。それは海外から、ポリオウイルスが国内に入ってくる可能性があるからです。海外では、依然としてポリオが流行している地域（パキスタンやアフガニスタンなど

の南西アジアやナイジェリアなどのアフリカ諸国)があります。これらの国の患者からの感染により、タジキスタンや中国などでも発生したという報告があります。ポリオウイルスに感染しても、麻痺などの症状が出ない場合が多いので、海外で感染したことに気が付かないまま帰国（あるいは入国）してしまう可能性があります。また、症状がなくても感染した人の便にはポリオウイルスが排泄され、感染源となる可能性があります。そのため、ポリオに対する免疫をもつ人の割合が減ると、流行する危険性が拡大します。仮に現在、ポリオウイルスが日本国内に持ち込まれても、ほとんどの人が免疫を持っているので、大きな流行になることはないと考えられます。シンガポール、オーストラリアなど、予防接種の接種率が高い国々では、ポリオの流行地からポリオ患者が入国しても、国内でウイルスが広がらなかったことが報告されています。しかし、予防接種を受けない人が増え、免疫を持たない人が増えると、持ち込まれたポリオウイルスは免疫を持たない人から持たない人へと感染し、ポリオの流行が起こる可能性が高まります。このため、今でもワクチンの接種が必要となっています。

3. 生ポリオワクチンと不活性化ワクチン

○生ポリオワクチン

「生ワクチン」は、ポリオウイルスの病原性を弱めて生成したもので、ほぼ一生続く腸管での免疫を獲得することができます。免疫をつける力が優れている一方で、まれにポリオにかかったときと同じ症状（小児麻痺）が出ることがあります。

○不活性化ワクチン

「不活化ワクチン」は、ポリオウイルスを不活化し、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して病原性を無くして生成したものです。このためポリオと同様の症状が出るという副反応はありません（ただし、アナフィラキシーや発熱などの副反応はあります）。

4. 不活化ワクチン移行の背景

生ポリオワクチンにより、小児麻痺を発症することがあることが背景にあります（予防接種健康被害救済制度に申請し、ポリオによる麻痺と認定された人数は、平成13年～平成22年の10年間で15人です）。このため、生ポリオワクチンを使用し続けることは、すでにポリオが根絶された本邦において、頻度が非常に低いとはいえ、ワクチン由来の小児麻痺の発生する可能性が続くことになります。したがって、生ポリオワクチン由来の小児麻痺を防止する方策として、不活化ポリオワクチンの導入が必至とされてきました。

また、平成24年の生ポリオワクチンの接種は前年と比較して接種率が20%も減少しています。このため、厚生労働省は保護者に対して、平成23年の秋に生後6か月の乳児が平成24年度末までワクチンの接種を受けずにいると、2歳になるまでずっとポリオに対して免疫のない状態になってしまうこと、また、免疫を持たない人が増えて国内でポリオが流行する恐れがあるとの理由で、接種を受けることを推奨しており、接種率の改善のためにも不活化ポリオワクチンへの移行が急がれました。

5. 不活化ポリオワクチンの接種回数・年齢・方法

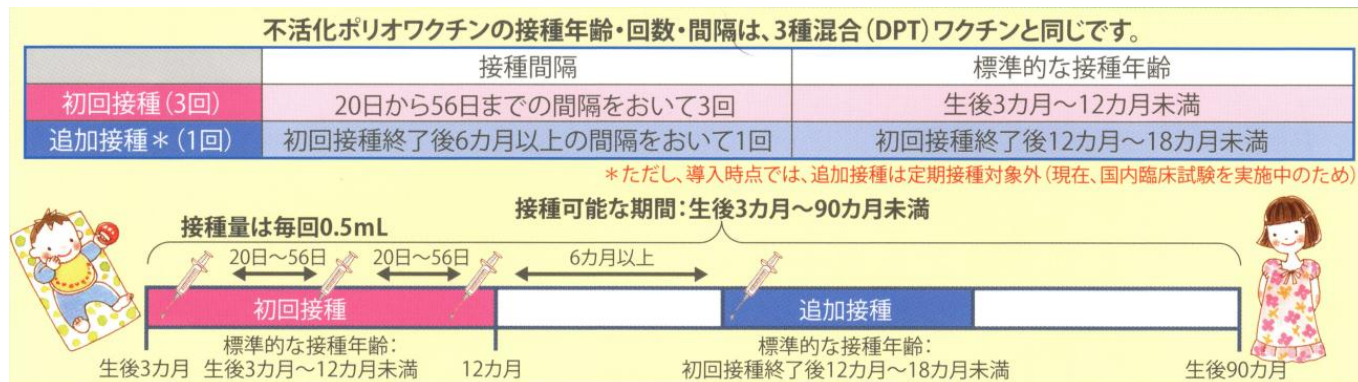
不活化ポリオワクチンは、初回接種3回、追加接種1回、合計4回の接種が必要となります。不活化ポリオワクチンの標準的な接種年齢・回数・間隔は、以下の通りです。

初回接種（3回）：生後3か月から12か月に3回（20日以上の間隔をおく）

追加接種（1回）：初回接種から12か月から18か月後（最低6か月後）に1回

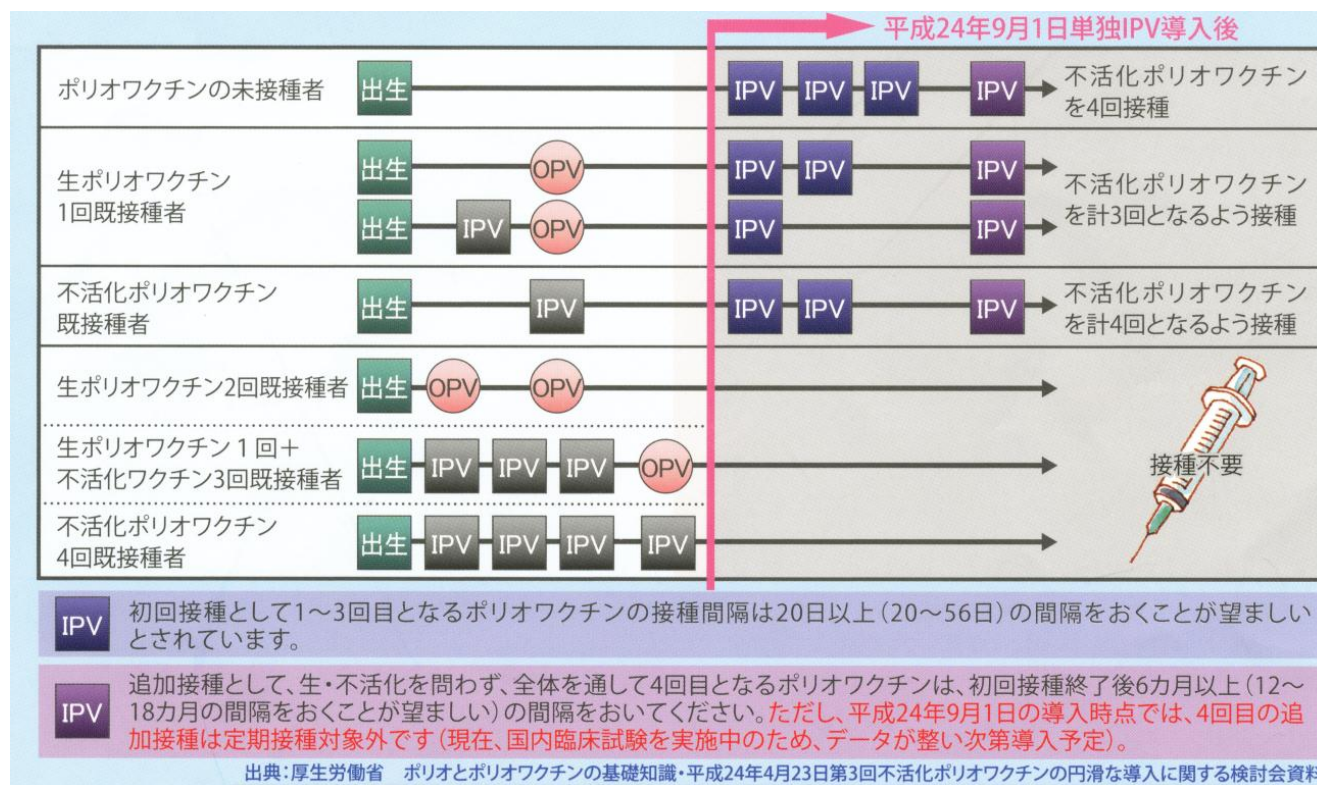
なお、この期間を過ぎた場合でも、生後 90 か月（7 歳半）に至るまでの間であれば、接種が可能です。過去に生ポリオワクチンを受けそびれた場合も、対象年齢内であれば、不活化ポリオワクチンの定期接種を受けることが可能であり、接種が推奨されます。

また、不活化ポリオワクチンは、注射による接種であるため、医療機関での個別接種となり、通年の接種が可能になる予定です（生ポリオワクチンは、経口ワクチンであり、春・秋の接種シーズンに集団接種が行われてきました）。



また、接種方法の移行期の接種スケジュールは、これまでの接種歴で異なります。

- ・不活化ポリオワクチン導入前に 1 回目の生ポリオワクチンを接種した場合、2 回目以降は不活化ポリオワクチンを接種することになります。
- ・平成 24 年 8 月 31 日時点で、生ポリオワクチンを 1 回接種した場合、9 月 1 日以降に、不活化ポリオワクチンを 3 回接種することになります。
- ・すでに不活化ポリオワクチン 1 回と生ポリオワクチン 1 回を受けている場合でも（順番問わず）、不活化ポリオワクチンの定期接種は可能です。
- ・生ポリオワクチン 1 回と不活化ポリオワクチンを合計して 4 回となるよう、残りの不活化ポリオワクチン 1～2 回を定期接種として受けることが可能です。



- ・生ポリオワクチンをすでに2回接種した場合、不活化ポリオワクチンの追加接種は不要です。
- ・平成24年9月1日の開始時では、全体を通して4回目となる単独不活化ポリオワクチンの追加接種は、定期接種には含まれません。単独の不活化ポリオワクチンを用いた追加接種は、今後、追加接種に関する試験データが整い次第、開始される予定です。

6. 不活化ポリオワクチンと他のワクチンと同時接種について

医師が特に必要と認めた場合、不活化ポリオワクチンを接種した日から、別の種類の予防接種を行うまでの間隔は、6日以上おく必要があります。

また、不活化ポリオワクチンが接種できるのは、他の不活化ワクチン（三種混合ワクチン（DPT）、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、インフルエンザワクチンなど）を接種してから6日以上、他の生ワクチン（BCGワクチンなど）を接種してから27日以上の間隔が必要となります。

（参考）

財団法人 阪大微生物病研究会

<http://www.biken.or.jp/special/01/index.html>

厚生労働省 ポリオとポリオワクチンの基礎知識

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/qa.html>

【5】インシデント事例からの注意喚起

過去の院内インシデント報告事例の中から、医薬品を安全に使用するために注意すべき事例などを挙げています。平成 24 年 8 月 1 日よりワーファリン錠 5mg が採用となりましたので、ワルファリン投与時の注意についてまとめております。

ワルファリン投与時の注意について

前回の8月号では、ワルファリンの投与量や休薬について掲載しました。今回は、ワルファリンと相互作用のみられる薬剤についてまとめました。INRのコントロールや併用開始時に参考にさせていただきますようお願いいたします。

↑：増強、↓：減弱、↑↓：影響を与える

分類	一般名	商品名	ワーファリン の作用
催眠鎮静剤、 抗不安剤	フェノバルビタール	フェノバル散 10% フェノバル錠 30mg フェノバル注射液 100mg ノーベルバル静注用 250mg	↓
	ペントバルビタール	ラボナ錠 50mg	↓
抗てんかん剤	プリミドン	プリミドン細粒 99.5%「日医工」	↓
	バルプロ酸ナトリウム	セレニカ R 錠 200mg セレニカ R 錠 400mg セレニカ R 顆粒 40% デパケン R 錠 100 デパケン R 錠 200 デパケンシロップ 5% デパケン細粒 40%	↑（一過性）
	フェニトイン	ヒダントール錠 25mg アレビアチン錠 100mg アレビアチン散 10% アレビアチン注 250mg	↑ ↓
	カルバマゼピン	テグレート錠 200mg テグレート細粒 50%	↓
解熱鎮痛消炎剤	インドメタシン	インテバン坐剤 50	↑
	インドメタシンファルネシル	インフリーS カプセル 200mg	↑
	ジクロフェナクナトリウム	ボルタレン錠 25mg ボルタレン SR カプセル 37.5mg ボルタレンサポ 12.5mg ボルタレンサポ 25mg ボルタレンサポ 50mg	↑
	エトドラク	ハイペン錠 200mg	↑
	メフェナム酸	ポンタールカプセル 250mg ポンタールシロップ 3.75%	↑

解熱鎮痛消炎剤	ロルノキシカム	ロルカム錠 4mg	↑
	アスピリン	アスピリン原末「マルイシ」	↑
	イブプロフェン	ユニプロン坐剤 100	↑
	フルルビプロフェン	フロベン顆粒 8%	↑
	フルルビプロフェンアキセチル	ロピオン静注 50mg	↑
	ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン錠 60mg	↑
	トラマドール塩酸塩	トラマールカプセル 25mg	↑
	トラマドール塩酸塩＋アセトアミノフェン	トラムセット配合錠	↑
	セレコキシブ	セレコックス錠 100mg	↑
精神神経用剤	アミトリプチリン塩酸塩	トリプタノール錠 10 トリプタノール錠 25	↑
	ノルトリプチリン塩酸塩	ノリトレン錠 10	↑
	パロキセチン塩酸塩水和物	パキシル錠 5mg パキシル CR 錠 12.5mg パキシル CR 錠 25mg	↑
	フルボキサミンマレイン酸塩	ルボックス錠 25 ルボックス錠 75	↑
	トラゾドン塩酸塩	デジレル錠 25 デジレル錠 50	↓
不整脈用剤	アミオダロン塩酸塩	アンカロン錠 100 アンカロン注 150	↑
	プロパフェノン塩酸塩	プロノン錠 150	↑
	キニジン硫酸塩水和物	硫酸キニジン錠 100mg「マイラン」	↑
血管拡張剤	ジピリダモール	アンギナール散 12.5% ペルサンチン錠 25mg ペルサンチン錠 100mg	↑
高脂血症用剤	フェノフィブラート	リピディールカプセル 100	↑
	ベザフィブラート	ベザトール SR 錠 200mg	↑
	シンバスタチン	リポバス錠 5	↑
	ロスバスタチンカルシウム	クレストール錠 2.5mg	↑
	コレステラミン	コレバインミニ 83%	↓
その他の循環器用薬	ボセンタン水和物	トラクリア錠 62.5mg	↓
消化性潰瘍用剤	シメチジン	タガメット注射液	↑
	メサラジン	ペンタサ錠 250mg ペンタサ錠 500mg アサコール錠 400mg	↓
抗ウイルス剤	リバビリン	コペガス錠 200mg	↓
生物学的製剤	インターフェロン-α	スミフェロン注 DS300 万 IU スミフェロン注 DS600 万 IU	↑

生物学的製剤	インターフェロン- α -2b	ペグイントロン皮下注用 50 μ g/0.5mL 用 ペグイントロン皮下注用 100 μ g/0.5mL 用	↑
	インターフェロン- β	フェロン注射用 300 万	↑
	インターフェロン- β -1b	ベタフェロン皮下注用 960 万 IU	↑
鎮吐剤	アプレピタント	イメンドカプセル 80mg イメンドカプセル 125mg	↓
	ホスアプレピタント	プロイメンド点滴静注用 150mg	↓
甲状腺、 副甲状腺ホルモン剤	プロピルチオウラシル	プロパジール錠 50mg	↑ ↓
	チアマゾール	メルカゾール注 10mg メルカゾール錠 5mg	↑ ↓
	レボチロキシンナトリウム水和物	チラーヂン S 錠 50 チラーヂン S1 万倍散	↑
副腎ホルモン剤	デキサメタゾン〔及びそのエステル 製剤〕	デカドロン錠 0.5mg デカドロン 1000 倍散 デキサート注射液 1.65mg デキサート注射液 6.6mg リメタゾン静注 2.5mg	↑ ↓
	ヒドロコルチゾン〔及びそのエステル 製剤〕	コートリル錠 10mg コートリル 100 倍散 ソル・コーテフ注射用 100mg ソル・コーテフ静注用 250mg サクシゾン注射用 100mg 水溶性ハイドロコートン注射液 500mg	↑ ↓
	フルドコルチゾン酢酸エステル	フロリネフ 1 万倍散	↑ ↓
	プレドニゾロン〔及びそのエステル 製剤〕	プレドニゾロン錠 1mg(旭化成) プレドニン錠 5mg プレドハン錠 2.5mg プレドニゾロン散「タケダ」1% 水溶性プレドニン 20mg	↑ ↓
	ベタメタゾン	リンデロン錠 0.5mg リンデロン注 2mg(0.4%)	↑ ↓
	ベタメタゾン＋クロルフェニラミン	セレスタミン配合錠	↑ ↓
	メチルプレドニゾロン〔及びそのエ ステル製剤〕	メドロール錠 4mg デポ・メドロール水懸注 20mg 注射用ソル・メルコート 40 注射用ソル・メルコート 125 注射用ソル・メルコート 500	↑ ↓
	テストステロンエナント酸エステル	エナルモンデポー	↑

男性ホルモン剤	エストラジオール〔及びそのエステル製剤〕	ジュリナ錠 0.5mg エストラーナテープ 0.72mg ディビゲル 1mg オバホルモンデポー筋注 5mg プロセキソール錠 0.5mg	↓
その他のホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	グルカゴン	グルカゴン G ノボ注射用 1mg	↑
	ミトタン	オベプリム	↓
痔疾用剤	トリベノシド・リドカイン	ボラザ G 坐剤 ボラザ G 軟膏	↑
ビタミン E 剤	トコフェロール酢酸エステル	ユベラ錠 50mg ユベラ顆粒 20%	↑
ビタミンK剤	フィトナジオン	ケーワン錠 5mg ケイツーシロップ 0.2% ケイツーN 静注 10mg	↓(禁忌)
	メナテトレノン	グラケーカプセル 15mg	↓(禁忌)
血液凝固阻止剤	ヘパリンナトリウム	ノボ・ヘパリン注 5 千単位/5mL ヘパリンナトリウム注 1 万単位/10mL「味の素」	↑(薬力学的相互作用)
	ダナパロイドナトリウム	オルガラン静注 1250 単位	↑
	パルナパリンナトリウム	ミニヘパ透析用 200 単位/mL シリンジ 20m	↑
	エノキサパリンナトリウム	クレキサン	↑
	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ注「フジ」60000	↑
	イコサペント酸エチル	エパデール S300 エパデール S900	↑
	クロピドグレル硫酸塩	プラビックス錠 75mg	↑
	サルポグレラート塩酸塩	アンプラーグ錠 100mg	↑
	シロスタゾール	プレタール OD 錠 100mg プレタール散 20%	↑
	チクロピジン塩酸塩	パナルジン錠 100mg	↑
	ベラプロストナトリウム	プロサイリン錠 20	↑
	リマプロスト アルファデクス	プロレナール錠 5 μ g	↑
血栓溶解剤	アルガトロバン水和物	ノバスタンHI注 10mg/2mL	↑
	ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩	プラザキサ 75mg プラザキサ 110mg	↑
抗血栓薬	フォンダパリヌクスナトリウム	アリクストラ皮下注 1.5mg アリクストラ皮下注 2.5mg	↑
	エドキサバントシル酸塩水和物	リクシアナ錠 15mg リクシアナ錠 30mg	↑
	乾燥濃縮人活性化プロテイン C	注射用アナクト C2,500 単位	↑

抗血栓薬	トロンボモデュリンアルファ	リコモジュリン点滴静注用 12800	↑
痛風治療剤	ベンズブロマロン	ユリノーム錠 50mg	↑
糖尿病薬	グリベンクラミド	オイグルコン錠 2.5mg	↑ ↓ (開始時) ↓ (継続)
	グリメピリド	アマリール 0.5mg 錠 アマリール 1mg 錠 アマリール 3mg 錠	↑ ↓ (開始時) ↓ (継続)
	グリクラジド	グリミクロン錠 40mg	↑ ↓ (開始時) ↓ (継続)
	メトホルミン塩酸塩	メトグルコ錠 250mg	↑
免疫抑制剤	シクロスポリン	ネオオーラル 10mg カプセル ネオオーラル 25mg カプセル ネオオーラル内用液 10% サンディミュン点滴静注用 250mg	↓
腫瘍用薬	シクロホスファミド	エンドキサン錠 50mg 注射用エンドキサン 100mg 注射用エンドキサン 500mg	↑ ↓
	イホスファミド	注射用イホマイド 1g	↑
	アザチオプリン	イムラン錠 50mg	↑ ↓
	メルカプトプリン水和物	ロイケリン散 10%	↑ ↓
	フルオロウラシル	5-FU 注 250 協和 5-FU 注 1000mg	↑
	カペシタビン	ゼローダ錠 300	↑
	テガフル+ギメラシル+オテラシルカリウム	ティーエスワン配合カプセル T20 ティーエスワン配合カプセル T25 ティーエスワン配合顆粒 T20 ティーエスワン配合顆粒 T25	↑
	テガフル+ウラシル	ユーエフティ配合カプセル T100 ユーエフティ E 配合顆粒 T150	↑
	メトトレキサート	メソトレキセート錠 2.5mg 注射用メソトレキセート 5mg 注射用メソトレキセート 50mg メソトレキセート点滴静注液 200mg	↑
	エトポシド	ラステット S カプセル 25mg エトポシド点滴静注液 100mg「サンド」	↑
	パクリタキセル	パクリタキセル点滴静注液 30mg「サンド」 パクリタキセル点滴静注液 100mg「サンド」 アブラキサン点滴静注用 100mg	↑
	ビンデシン硫酸塩	注射用フィルデシン 1mg	↑
	タモキシフェンクエン酸塩	タスオミン錠 10mg	↑

腫瘍用薬	カルボプラチン	カルボプラチン点滴静注液 150mg「日医工」 カルボプラチン点滴静注液 450mg「マルコ」	↑
	シスプラチン	プラトシン注 10 プラトシン注 50	↑
	フルタミド	オダイン錠 125mg	↑
	ビカルタミド	カソデックス錠 80mg	↑
	ゲフィチニブ	イレッサ錠 250	↑
	イマチニブメシル酸塩	グリベック錠 100mg	↑
	トラスツズマブ	ハーセプチン注射用 150	↑
	エルロチニブ塩酸塩	タルセバ錠 25mg タルセバ錠 100mg タルセバ錠 150mg	↑
アレルギー用薬	トラニラスト	リザベнкаプセル 100mg リザベンドライシロップ 5%	↑
リウマチ治療剤	オーラノフィン	リドーラ錠 3mg	↑
	レフルノミド	アラバ錠 10mg アラバ錠 100mg	↑
抗生物質	ストレプトマイシン硫酸塩	硫酸ストレプトマイシン注射用 1g「明治」	↑
	ゲンタマイシン硫酸塩	ゲンタシン注 10 ゲンタシン注 40	↑
	アミカシン硫酸塩	アミカシン硫酸塩注射用 200mg「日医工」	↑
	カナマイシンー硫酸塩	カナマイシンカプセル 250mg「明治」 カナマイシンドライシロップ 5%「明治」	↑
	イセパマイシン硫酸塩	イセパマイシン硫酸塩注射液 20mg「日医工」	↑
	アルベカシン硫酸塩	ハベカシン注射液 200mg	↑
	セファゾリンナトリウム	セファメジン α 注射用 1g	↑
	セフメタゾールナトリウム	セフメタゾン静注用 0.5g セフメタゾン静注用 1g	↑
	セフォチアム塩酸塩	ハロスポア静注用 1g	↑
	セフォタキシムナトリウム	クラフォラン注射用 1g	↑
	フロモキシセフナトリウム	フルマリン静注用 0.5g フルマリン静注用 1g	↑
	セフトリアキソンナトリウム	ロセフィン静注用 1g	↑
	セフトジジム	セフトジジム静注用 1g「マイラン」	↑
	ラタモキシセフナトリウム	シオマリン静注用 1g	↑
	セフォゾブラン塩酸塩	ファーストシン静注用 1g	↑
	セフェピム塩酸塩	注射用マキシピーム 1g	↑

抗生物質	セフジレンピボキシル	メイアクト MS 錠 100mg メイアクト MS 小児用細粒 10%	↑
	セフポドキシムプロキセチル	バナンドライシロップ 5%	↑
	セフジニル	セフゾンカプセル 100mg セフゾン細粒小児用 10%	↑
	セフカペンピボキシル塩酸塩	フロモックス錠 100mg フロモックス小児用細粒 100mg	↑
	ミノサイクリン塩酸塩	ミノペン錠 50 ミノペン顆粒 2% ミノサイクリン塩酸塩点滴静注用 100mg 「日医工」	↑
	テトラサイクリン塩酸塩	アクロマイシン V カプセル 250mg	↑
	デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	レダマイシンカプセル 150mg	↑
	ベンジルペニシリンカリウム	注射用ペニシリン G カリウム 100 万単位	↑ ↓
	アンピシリン	ビクシリンカプセル 250mg ビクシンドライシロップ 10% ビクシリン注射用 0.5g	↑ ↓
	アモキシシリン	サワシリンカプセル 250 サワシリン細粒 10%	↑ ↓
	ピペラシリンナトリウム	ペントシリン注射用 1g	↑ ↓
	スルタミシリントシル酸塩	ユナシン錠 375mg ユナシン細粒小児用 10% ユナシン-S 静注用 1.5g	↑ ↓
	タバゾクタム ピペラシリン	ゾシン静注用 4.5g	↑ ↓
	エリスロマイシン	エリスロシン錠 200mg エリスロシンドライシロップ 10% エリスロシン点滴静注用 500mg	↑
	クラリスロマイシン	クラリス錠 50 小児用 クラリス錠 200 クラリシッド・ドライシロップ 10%小児用	↑
	アジスロマイシン水和物	ジスロマック SR 成人用ドライシロップ 2g ジスロマック細粒小児用 10% ジスロマック点滴静注用 500mg	↑
	クリンダマイシンリン酸エステル	ダラシнкаプセル 150mg クリダマシ注 600mg	↑
	バンコマイシン塩酸塩	点滴静注用バンコマイシン 0.5「MEEK」	↑
	テイコプラニン	注射用タゴシッド 200mg	↑
抗結核剤	リファンピシン	リファジンカプセル 150mg	↓
	イソニアジド	イスコチン錠 100mg イスコチン原末	↑

抗結核剤	イソニアジド	イスコチン注 100mg	↑
キノロン系合成抗菌剤	シプロフロキサシン	シプロキサン注 300mg150mL	↑
	モキシフロキサシン塩酸塩	アベロックス錠 400mg	↑
	トスフロキサシントシル酸塩水和物	オゼックス錠 150 オゼックス細粒小児用 15%	↑
	レボフロキサシン水和物	クラビット錠 250mg クラビット点滴静注バッグ 500mg/100mL	↑
サルファ剤	サラゾスルファピリジン	サラゾピリン錠 500mg サラゾピリン坐剤 500mg	↑ ↓
抗真菌剤	イトラコナゾール	イトリゾールカプセル 50 イトリゾール内用液 1% イトリゾール注 1%	↑
	フルコナゾール	ジフルカンカプセル 100mg ミコシスト静注液 0.2%100mL	↑
	ホスフルコナゾール	プロジフ静注液 200	↑
	ボリコナゾール	ブイフェンド錠 50mg ブイフェンド 200mg 静注用	↑
	ミコナゾール	フロリードゲル経口用 2%	↑
	テルビナフィン塩酸塩	ラミシール錠 125mg	↑ ↓
抗ウイルス剤	ホスアンプレナビルカルシウム水和物	レクシヴァ錠 700	↑
	リトナビル ロピナビル・リトナビル配合剤	ノービア錠 100mg カレトラ配合錠	↑
寄生動物用薬	メトロニダゾール	フラジール内服錠 250mg フラジール腔錠 250mg	↑
	ジスルフィラム	ノックビン原末	↑

参考：ワーファリン適正使用情報 第3版（エーザイ株式会社）

【6】 10月より長期投与可能となる医薬品について

平成 24 年 10 月より、下記に示す院内採用品が長期投与可能となります。

処方及び使用の際には添付文書をご確認下さい。

採用薬	成分	効能・効果
【試】アレロック顆粒 0.5% (院外)	オロパジン塩酸塩	成人:アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、 皮膚疾患に伴うそう痒(湿疹・皮 膚炎、痒疹、皮膚そう痒症、尋常 性乾癬、多形滲出性紅斑) 小児:アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、 皮膚疾患に伴うそう痒(湿疹・皮 膚炎、皮膚そう痒症)
トラゼンタ錠 5mg	リナグリプチン	2 型糖尿病 (ただし、食事療法・ 運動療法のみで十分な効果が得 られない場合に限る)
ネキシウムカプセル 20mg	エソメプラゾール マグネシウム水和物	胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰 瘍、逆流性食道炎、非びらん性胃 食道逆流症、Zollinger-Ellison 症 候群、非ステロイド性抗炎症薬投 与時における胃潰瘍又は十二指 腸潰瘍の再発抑制 下記におけるヘリコバクター・ピ ロリの除菌の補助/胃潰瘍、十二 指腸潰瘍、胃 MALT リンパ腫、 特発性血小板減少性紫斑病、早期 胃癌に対する内視鏡的治療後胃
【試】ベタニス錠 50mg	ミラベグロン	過活動膀胱における尿意切迫感、 頻尿および切迫性尿失禁
ボノテオ錠 50mg	ミノドロン酸水和物	骨粗鬆症
オンブレス吸入用カプセル 150μg(科限)	インダカテロール マレイン酸塩	慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支 炎、肺気腫)の気道閉塞性障害に 基づく諸症状の緩解
フォリスチム注 900IU カートリッジ(科限)	フォリトロピンベータ (遺伝子組換え)	複数卵胞発育のための調節卵巣 刺激 視床下部・下垂体機能障害に伴う 無排卵及び希発排卵における排 卵誘発